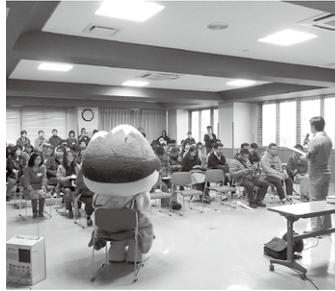




スマホ片手にまち歩きを楽しむ参加者



大手公民館で行われた開会式



INGRESS (イングレス) で まち歩き

11月14日(土)、大手公民館を主会場にスマートフォン(スマホ、多機能携帯電話)の無料ゲーム「Ingress (イングレス)」を使って城下町を巡るイベントが行われました。

このゲームは、六九町や上土の三峯神社、裏町の石碑など13カ所に「ポータル」が設定され、参加者は2チームに分かれてスマホを使ってポータルを巡り陣地を奪い合うゲームです。城下町らしさを生かしたまちづくりを考える市職員の有志でつくる「城下町再生プロジェクト」が企画し、県内外から63名の参加がありました。

当日は雨の中ではありませんでしたが、スマホを片手にゲームとまち歩きを楽しまれました。

中央地区 人権啓発推進協議会 視察研修

満蒙開拓平和記念館 視察研修に参加して

高原 秀典 (今町2丁目)



満蒙開拓平和記念館 (館内は撮影禁止となっています)

満蒙開拓平和記念館は、満州の家をモデルにした付まいで、根羽村の杉を16本使用しているそうだ。中に入ると天井が高く、これは満州で犠牲になった8万人の方々の慰霊の意味があるそうだ。

昭和2年(4年)は銀行が倒産し、経済はどん底であった。このような背景の中、30万人ともいわれる貧しい農村の人々が「20町歩の地主になれる」とか、「住み心地の良い住宅に住める」などという誘いに乗せられて満州に渡った。農地は中国人から安く買いたたいたり取り上げたもので、開拓したものではなかった。そして実際は、政府と軍による「強制収容」であった。ガイドさんの解説が終わるころ、終戦間近に満州に置き去りにされた女性

子ども、老人たちを「キミン」というガイドさんが言われた。どういう字を書くのか私には聞いてみた。すると、「棄民」という事だった。関東軍に利用され、最後に捨て去られた人達だった。それも二重に棄てられていた。壁に掛けてある物には「開拓移民の人々は、もはや日本国籍に非ず」と書いてあった。国家による大きな嘘により満州に連れていかれた、日本国籍も奪われた人達だった。なぜこのような悲劇が起こったのだろう。保身と補助金を目当てに、無辜の民(罪のない人)を危険な場所に送り出した県、村長、信濃教育会(満キチと呼ばれた)の責任は重い。但し、大下条村(阿南町)の佐々木村長は最後まで村民たちの送り出しを拒み、200〜300人の村民を救ったといわれている。幸運にも日本に帰れた人々(3人に1人)でさえ、引揚者として大変苦勞された。

荒地地だった引揚者村は長野県内にも点在し、「満蒙開拓殉難の碑」が残っている。

佐々木村長を見習い、上からの情報を自分の目で見、考え、冷静に対処することが肝要であると知らされた研修会でした。

長元坊 ちょうげんぼう 幻のレンガ

上土の中心に大正ロマンを彷彿とさせる下町会館があります。この角を西に曲がると花月ホテル、土蔵造りの磯村本店、三代澤酒店、角に山崎歯科医院のレトロなレンガ造りの建物があり、おしろ下町にはとても良い雰囲気での通りでした。しかし先の松本地震の影響で、山崎歯科医院はレンガの傷みが激しく取り壊されてしまいました。

あるクレジットカード会社のパートナーという冊子に、っぽん建築散策のシリーズがあり、画家でイラストレーター小林泰彦さんという方がレトロな建物をイラスト入りで紹介した地図があります。毎回楽しみにしているのですが、この限界が載っていました。

下町会館、宮島耳鼻咽喉科医院、開智小学校などが載っていました。山崎歯科医院も描こうと来てみたら角に少しかだけレンガが残っていただけでとても残念だと書いてありました。お城のお堀同様、市内のレトロな建物も市で守ってほしいなと思います。

(A・S)

「松本市文書館」を見学して

百瀬 隆(六九町会)



昨年12月、大手公民館主催の「松本市文書館見学ツアー」に参加しました。

文書館は、『松本市史』の編纂の中で収集された古文書・写真等を保存し、市民に公開するために設立され、平成26年に新松本市文書館としてリニューアルされたそうです。

当日はマイクロバスで鎌田にある文書館を訪問し、前半は文書館特別専門員である小松芳郎氏の講話、後半は学芸員の案内で施設を見学しました。

文書館職員の皆さんと一緒に



館内見学



12月21日(月)、中央地区役員8名の皆さんが、大手公民館前で門松作りを行い、高さ約2.5mの立派な門松が完成しました。

竹は、小泉修平さん、赤松・紅白南天は、藤村吉彦さん、「こも」は、犬飼富雄さんがワラをきれいにすいてくださり、

公民館前に立派な門松!

「学都松本」を象徴している施設を見学できて大変参考になりました。このような企画を準備していただいた文書館・公民館の皆さんに感謝申し上げます。

施設見学では、文書記録を最適に保存管理するために、気温や湿度、光などに細心の注意をすることがわかりました。

小松氏は講話の中で、旧制松本高校の誘致に尽力した辻新次、「信濃の国」の作詞者である浅井洸ら中央地区出身者達をユーモアたっぷりに紹介され、知的な時間を過ごすことができました。



特別専門員 小松 芳郎氏

12月26日(土)、年末恒例の餅つき大会が開かれました。

もち米約16キロを蒸し、臼ときねを使った昔ながらの餅つきを、地元の親子ら約90名が楽しんでいました。



恒例の

中央地区餅つき大会

設置された門松を見た公民館利用者の皆さんからは、「立派な門松だねえ!」と、感嘆の声が上がっていました。

作業にあたられた地区役員の皆さん、寒い中お疲れ様でした!



地区役員有志の皆さん

今年も、市マスコットキャラクターのアルプちゃんに来てくれて、参加されたお子さんと一緒に記念写真を撮りました。

餅つき終了後は、あんこやきな粉で味付けしたお餅をみんな味わい、年末の楽しい思い出づくりとなったことでしょう。

中央地区新年初顔合わせ会

中央地区新年初顔合わせ会が1月5日(火)、午前11時から、大手公民館大会議室にて開催されました。

朝早くから地区の健康づくり推進員、民生委員の皆さんがお雑煮やおにぎりを作り、



仕出しのつまみなどと一緒に囲んで、地区住民・関係団体役員など、約50名の皆さんが賑やかな時間を過ごされました。

中央地区の今後のまちづくりを進める上で、課題やアイデアを住民の皆さんで出し合いながら、活力ある一年となるよう本年もよろしくお願ひ致します。



松本城の野鳥たち ③2

ヒヨドリ

写真は久保田佐久良さん(岡田在住)が、松本城の外堀で撮影

ヒヨドリはスズメ目ヒヨドリ科ヒヨドリ属に分類される鳥類である。

全長は約27・5cmでムクドリやツグミより体型はほっそりしている。里山や公園など木のある環境に多く生息し、おもに樹上で活動するが、地上に降りることもある。

果実を食べたり花の蜜を吸うが、ときに集団で畑に現れてはキャベツやブロッコリーなどの農作物を食い荒らすこともあります。